

# こいた 小板まきばの里通信Vol 8

～草のロゼットを探してみよう～

小板まきばの里へようこそ。小板まきばの里は西中国山地国定公園内の南に深入山、北に臥竜山で挟まれた標高750mの山里、小板集落の一角にあります。2018年11月にこの地に移住してきたスタッフ2名が60年以上前に住人がいなくなり荒地と化した耕作放棄地を、この土地の自然の恵みを活用しながら手作りで開拓しています。このキャンプ場ならではの豊かな自然と波乱万丈の開拓現場の探索をお楽しみください。

## ■ キャンプ場周辺で冬の植物を探索しよう！



ヒヨドリバナ  
(枯れ花)



コバノ  
フユイチゴ



タネツケバナ



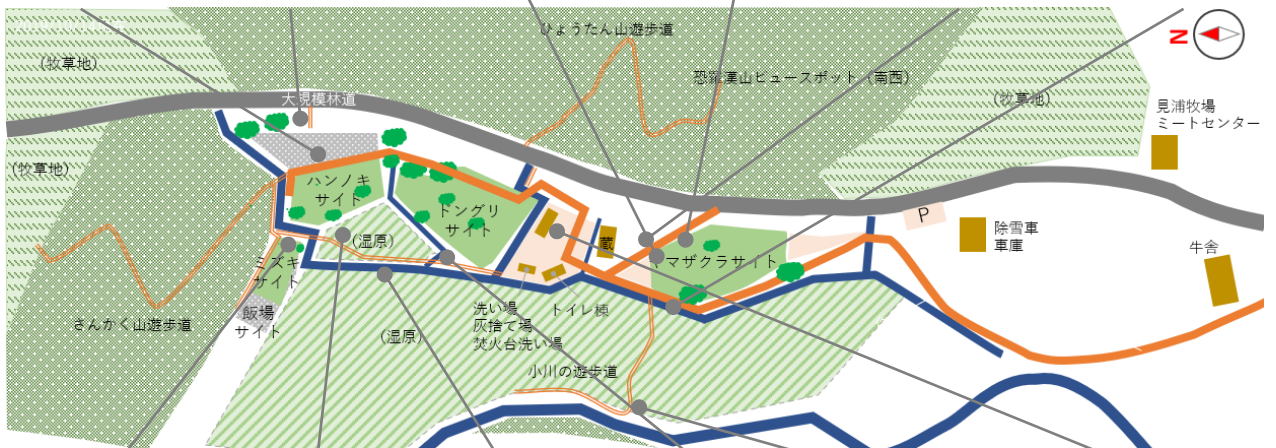
ヨモギ



ノリオツギ  
(枯れ花)



レンゲツツジ  
(冬芽)



アケボノソウ  
(枯れ花)



ノアザミ



メタカラコウ  
(枯れ花)



シロヨメナ  
(枯れ花)



チャルメルソウ



セイヨウ  
タンポポ

## ■ 里山の自然観察 ～草のロゼットを探してみよう～

11月半ばを過ぎると、木々の葉もほとんど落ちて里山は冬枯れの景色に変わっていきます。地面も一見枯草だけになってしまったように見えますが、よく見ると地面のあちこちに張り付くように広がった緑の草を見つけることができます。円形に広がった葉が踏まれてぺちゃんこになったようなこの姿は、バラの花の形を意味する「ロゼット」と呼ばれる形態で、いろいろな草がこの形で冬越しをします。この形なら、真冬でも約4°Cで安定している雪と地面の境界に生えているため大事な芽や葉が凍る心配はありませんし、雪の重みで茎や葉が折れたり曲がったりするのも防げます。また、緑の葉のまま冬を越すことで、雪解け後に他の植物に先駆けて成長を始めることができるのです。キャンプ場周辺では積雪の前後にしか見られない草のロゼットを探してみましよう。